

ヨーロッパ港巡り（フランス、オランダ）

会員 福富 廉

2025年夏、セイル・アムステルダム 2025 の見学を主目的にヨーロッパを巡ってきた。ここでは、これまでに掲示されたレポート（学会ニュース 2025-171, 222, 223）以外の港でのシップ・ウォッチングの結果についてご紹介したい。

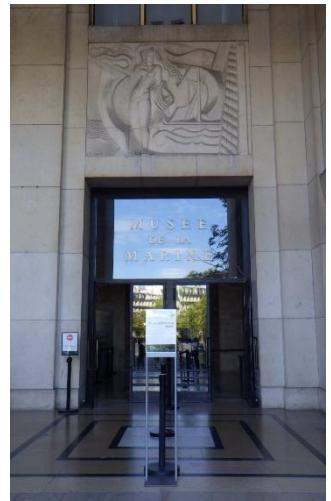
1. パリ

・国立パリ海事博物館 (Musée national de la Marine à Paris)

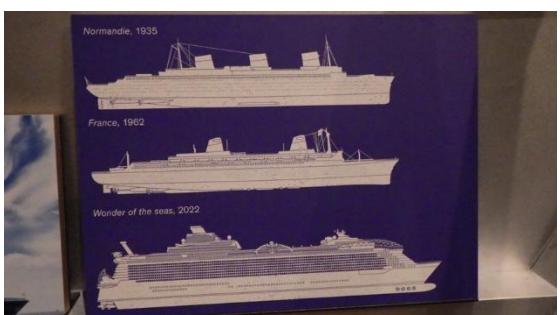
セーヌ川をはさんでエッフェル塔の対岸のシャイヨー宮にあるこの博物館、Google マップでは海軍博物館とあり、その他見てみると、日本語では海洋、海事と色々とあるが、上記のフランス語の表記と軍艦だけでなったこと、そして、船以外の展示はほとんど無かったことから個人的には“海事”と呼ぶべきでは無いだろうか。それはさておき、前回 2017 年に訪れた時は長期改裝中で見学できなかったが、2023 年 11 月に再オープンし、今回、パリを訪れた最大の目的だった。

元宮殿とあって、壮麗な感じがする内部には昔の軍船の模型や絵画が数多く展示されていたが、私の興味は、やはり、「ノルマンディー」や「フランス」に関する展示コーナーで、大変興味深かった。

エントランス →



(左) 入口付近
(右) 絵画コーナー



(左) 海軍史コーナー
(右) 客船コーナー
ノルマンディー、
フランス、
ワンダー・オブ・
ザ・シーズ
(仮建造最大船)
の大きさ比較



(左右)
仮客船コーナー

・セーヌ川の遊覧船

エッフェル塔の袂からコンコルド広場を目指してセーヌ川の南岸を東に向かって歩きながら、目まぐるしく通る遊覧船のシップウォッチングでしたが、とにかく、奇妙とも言うべき、色々な遊覧船がいて、とても楽しかった。ロンドンのテムズ川沿いと比べると、建物や浮かぶレストランのような施設はあったが、保存船や船のレストランのようなものはほとんど無かったように思う。



PARIS MONTPARNASSE



LA GALIOTE



PARIS TROCADERO



LE PARIS



CRISTAL II



DAUPHINE



INSOLITE



HYDRASEINE



LE GRAND PAVOIS



EUROPA



ISABELLE ADJANI

2. ルアーブル

フランスでの港巡りを考えれば、ルアーブルは外せず、港巡りの遊覧船もあったことから、遊覧船だけを目的に遠回りながら立ち寄ることにした。パリから鉄道で2時間の所だ。

ルアーブルの港は、フェリー・ターミナルやクルーズ・ターミナルが並んで、砂浜とヨットハーバーのあるレクリエーション地区を含む昔からの商港である内港と、巨大なコンテナ・ターミナルのある外港の2つに分かれている。鉄道駅から砂浜の海岸まではトランで10分程の距離だが、ぶらぶら内港沿いを歩いていくと保存船有り、ポーツマス行のフェリー・ターミナル有り、そして街の中心の市役所のロビーには色々な船の模型もあり、予想通り、船好きにはなかなか楽しい街だった。ちなみに、第2次世界大戦で徹底的に破壊されたこの街は“オーギュスト・ペレによって再建された都市ルアーブル”と呼ばれ、優れた計画都市として世界遺産になっているそうで、市街のランドマーク‘聖ジョセフ教会’等も見事であった。

港巡りの遊覧船はヨットハーバーから出港するが、航路は当日の船長の判断次第とされていた。地図で見ると、内港と外港の港口が異なっており、外港へは一旦、イギリス海峡に出ないと外港には行けず、天候が良ければ外港クルーズ、そうで無ければ、内港クルーズと言うことらしい。当日は天候に恵まれて、期待通り、外港まで行け、日本では見られない23,000TEUの巨大コンテナ船を間近に見られたが、ちょうど、内港に入港していた「ノルウェージャン・スカイ」は鼻先をかすめただけだったのは少し残念だった。



博物館として保存されている 1935 年製の灯船「DYKE」



保存船されている 1944 年製のアメリカ陸軍の曳船「ST488」
戦前、ルアーブル周辺で活躍し、戦後は民間船として 1970 年代
後半まで稼働して、その後、博物館保存船となった



ルアーブル港に停泊中のフェリー
「COMMODORE CLIPPER」

現在は Brittany Ferries の船として、夏季はルアーブル～ポーツマス (UK) 航路に就いていた





港巡りの遊覧船「VILLE DE HAVRE」



内港の入口付近からヨットハーバー越しに市街を見る



外港から防波堤越しに見る内港の「NORWEGIAN SKY」



遊覧船の船上から



内港に入港してきた浚渫船「SAMUEL DE CHAMPLAIN」



市役所玄関に飾っていた 8,500TEU コンテナ船模型



岸壁の総延長約 4km
ガントリークレーン数 25 基
内港側にもターミナル有

23,112TEU 超大型コンテナ船
「CMA CGM JACQUES SAADE」
完成した 2019 年時点では
世界最大の LNG 燃料コンテナ船
たった。



遊覧船はガントリー・クレーンの
アーム下まで接近した

3. ナント

ナントはサン・ナゼールの近くの大都市で、市の真ん中をロワール川が貫いている。この街は交通の要衝であり、ロワール川クルーズの発着地であり、また、小説家ジュール・ベルヌの生地（博物館がある）であることや遊園地の機械仕掛けの巨大な象等で有名である。市内には川を渡る渡船も走っていて、滞在した土日はバスやトランジットを含めて運賃が無料だった。私はここからサン・ナゼールに向かう遊覧船に乗って、2時間半のロワール川下りに乗船したが、ナント付近の色々な景色、途中の荒漠とした農地や湿地地帯、カーフェリー、そして、サン・ナゼール近郊の工業地帯やサン・ナゼール橋の通過、アトランティック造船所の望見と色々な景色を楽しむことができた。



ロワール川の渡し船「ILE DE NANTES」



遊覧船や渡船の乗り場 “GARE MARITIME”（海洋駅？）
手前はロワール川下りの遊覧船「IROKO」



保存仏駆逐艦「Maillé-Brézé」(D627) と街並み
1957～1988年の間就役した



“GARE MARITIME” の対岸の元の造船所の跡地



ロワール川のクルーズ船「LOIRE PRINCESSE」
ダミーと思われるが外輪と煙突が付いている



遊覧船「PAPILLON BLEU」



川渡のカーフェリー「LOLA」ナント～サンナゼール間には、其々の市街近くに橋が各1つと、中間に渡船が2つあった



上記の少し下流側の川渡のカーフェリー「L'ÎLE DUMET」



商船三井と中国 COSCO の
合弁会社の碎氷 LNG 船
「VLADIMIR VIZE」
同型 3 隻のうちの 2 番船

北極海航路に就くことを目的
に造られた船

サン・ナゼールの手前にて

4. ボルドー

私はクルーズ趣味から派生してワインが好きなのは元よりだが、ブドウの木が立ち並ぶワイナリーの景色を見ることがとても好きだ。サン・ナゼールに行ったら、近く（と言っても 400km 程離れているが）のボルドーに行くのは必然のことだった。と言っても、ここでは“月の港”として知られているボルドー港のシップ・ウォッチングの結果を紹介したい。

ボルドーはビスケー湾からジロンド川を 100km 程遡り、ドルドーニュ川と枝分かれしたガロンヌ川の畔にあり、世界遺産となって古い建物が連なる街の中心部を大きく湾曲していることから“月”的名前がある。ここも、川や周辺の船溜まりに多数の遊覧船やクルーズ船が見られ、川にはいくつかの渡船も走っていた。ちょうど、街の真ん中に「シードリームⅡ」が入港し着岸していたが、どこかで写真を見たような気がして調べてみたら、我が「にっぽん丸」も 2008 年の世界一周の途中で寄港した情報があった。



ガロンヌ川の渡し船「La sittelle」 川は左に膨らんで湾曲 右奥はワイン博物館



ガロンヌ川の渡し船「L'Hirondelle」



遊覧船「BURDIGALA」他



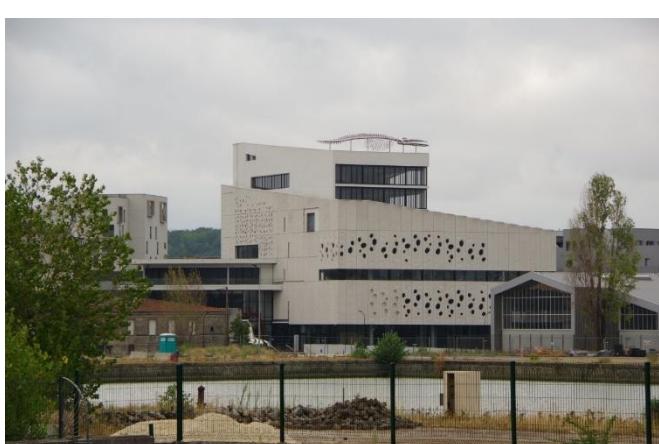
遊覧船「LE MADDALENA」



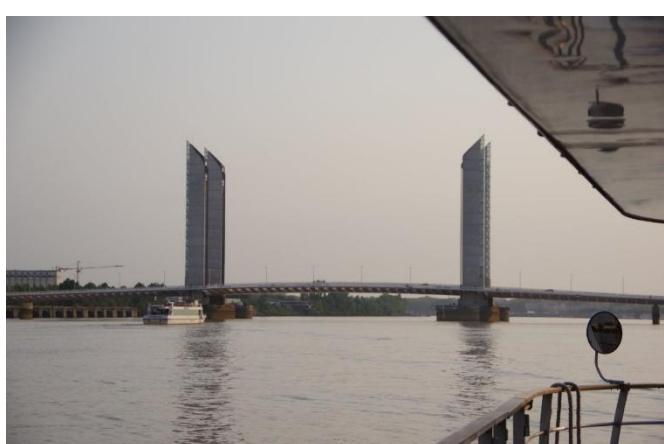
川の西側の船溜まり 古い船や古い港湾設備等が多数あった



船溜まりの傍にあったブンカー（潜水艦基地）跡



ボルドーの海事博物館 行った日は休館日だった
もう1館あるはずだったがみつからなかった（廃館？）



街の北（下流）にあるジャック・シャパン・デルマ橋
地図で見ると三日月の上端にあたる付近にある
中央部が上下してクルーズ船等を通す



ボルドーの市街地に着岸している「SEA DREAM II」 岸壁はただの公園で特に何も設備は無い 「にっぽん丸」もここに来たはず



クルーズ船「VIKING FORSETI」

5. エイマイデン（アムステルダム）

北海からアムステルダムへ通じる北海運河の出入口エイマイデンへ行って見た。市街からバスを1~2回乗り継げば行けるので、そう遠い訳でも無い。帆船祭りのパレードの翌日だったので、前日の喧騒とは真逆の静かさだった。ここには、大型船用の大きな閘門が2つと小型舟艇用の閘門が2つあり、閘門と運河の北側が製鉄所、南側が住宅地で、南側の閘門の外側にヨットハーバー、フェリー・ターミナル、クルーズ・ターミナル等もある。フェリーはDFDSのイギリスのニューキャッスル行が1日1便（冬期は2日に1便）走っており、また、クルーズ・ターミナルへの入港船も結構あるようだ。アムステルダムはオーバーツーリズム対策で将来的に市街への大型クルーズ船の入港を禁止することになっているが、ここは対象外だそうなので、将来はこちらがメインになるのかもしれない。



エイマイデンに
入港していた
「NORWEGIAN SKY」
左は、多目的支援船の
「EDT PROTEA」



北海運河、アムステルダム港の入口西岸から港口防波堤を見る



エイマイデンの街側の小型舟艇用閘門



エイマイデンの大型船用閘門 2基 写真左が大きい 右の写真は右の閘門から出るタンカー「STAV POWER」(マデイラ船籍)

閘門の内側近くに渡し船が走っていて往復乗船してみたが、こちらは市街地のそれとは違って、車も積むカーフェリーだった。



エイマイデンのカーフェリー
「NZK PONT 100」
Velsen-Zuid～Velsen-Nord 間
(F22 航路)





エイマイデンに停泊する
ニューキャッスル行
DFDS のカーフェリー
「KING SEAWAYS」



エイマイデンの少しアムス
テルダム寄りの Velsen-
Nord に係船されていた
「OCEAN MAJESTY」

元カーフェリー
「JUAN MARCH」として
1966 年に建造され、主に
地中海で活躍したが、
1989 年に現在の名前でク
ルーズ船となった。前後に
何度も名前が変わっている
が、現在は難民等のホテル
シップになっている模様。
現役で最も古いクルーズ船
とされているようだ。

6. ロッテルダム

ロッテルダムには一度行ったことがあったが、マース川河口にあってヨーロッパ最大と言われるユーロポートのコンテナ・ターミナルには行けておらず、何とか行けないものか調べてみた。ロッテルダムの市街からの 1 日クルーズを見つけたが、それは日曜日のみの運航で、他を見ると、河口対岸のフック・ファン・ホラントからの渡し船があり、それに往復乗船（対地側には公共交通機関が無い）すると見ることができそうだった。フック・ファン・ホラントへはロッテルダム市街から地下鉄で容易に行くことができ、そこにイギリス行のフェリー・ターミナルもあった。

結果的には、目論見以上のシップ・ウォッチングの成果があり、日本では見られない 20,000TEU 超の超大型コンテナ船 3 隻の他、大型コンテナ船 7 隻、大型 LNG 船 2 隻、超大型 ULCC タンカー 2 隻等を一堂に見ることができた。その後は、市街側に回って港を見たり、前回の経験で川の両岸に見所の多い、ドルドレヒトまでの水上バスに往復乗船して来ることができた。



ロッテルダム港口の渡し船「VEER ROYAL」人・軽車両のみ



港入口の防波堤に集まるアザラシの群れ



遊覧船「HENRY HUDSON」市街の方から来た？？



ロッテルダム港の港務艇か？？「NIEUWE MAZE」



イギリスのハーヴィッチ行
ステナ・ラインの
「STENA
BRITANNICA」

(左上)
フック・ファン・ホラント
の駅前から
この写真の右にターミナル
がある
(右上)

渡し船（14時出港）から
(左)
反転して出て行く同船
14:15 出港と早い



停泊中の
イギリス中部のイミンガム行
ステナ・ラインの
「STENA TRANSIT」

乗客定員 300 名のフェリー
だが、貨物フェリーとして
使われているようだ。



港口から港内を見る GoogleMap で見ると港口は1つだが、このようなコンテナ専用の長い岸壁が5箇所はあるようだ
渡船は右奥に進む



24,188TEU
超大型コンテナ船
「OOCL VALENCIA」



大型コンテナ船「ONE RESPONSIBILITY」



大型 LNG 船「ATTALOS」



23,664TEU 超大型コンテナ船「BUSAN EXPRESS」



XPF 社の 1,260TEU フィーダー・コンテナ船「ECO UMANDE」
中国建造の同社 8 隻シリーズのメタノール燃料第 1 船



港口に入ってきたマースク・ラインのメタノール燃料 17,480TEU コンテナ船「BERLIN MAERSK」
16,000TEU 型 A シリーズ（「ANNA MAERSK」他）に次ぐ B 型シリーズ 1 番船 A シリーズより幅が 2m 長い



ロッテルダム市街にいた「SILJA EUROPA」
ここに来る前は、前述の「OCEAN MAJESTY」の位置に
あり、そこから、移動した今日も同様の役目のようだ



ヨーロッパ最大級の 1926 年製外輪蒸気船「DE MAJESTEIT」
現在はイベント会場として使われている模様



水上バス「AQUA RUNNER」



SPIDO 桟橋の遊覧船「MARCO POLO」（左）と「JAMES COOK」



ノアの箱舟のレプリカ（宗教施設・博物館の建物）



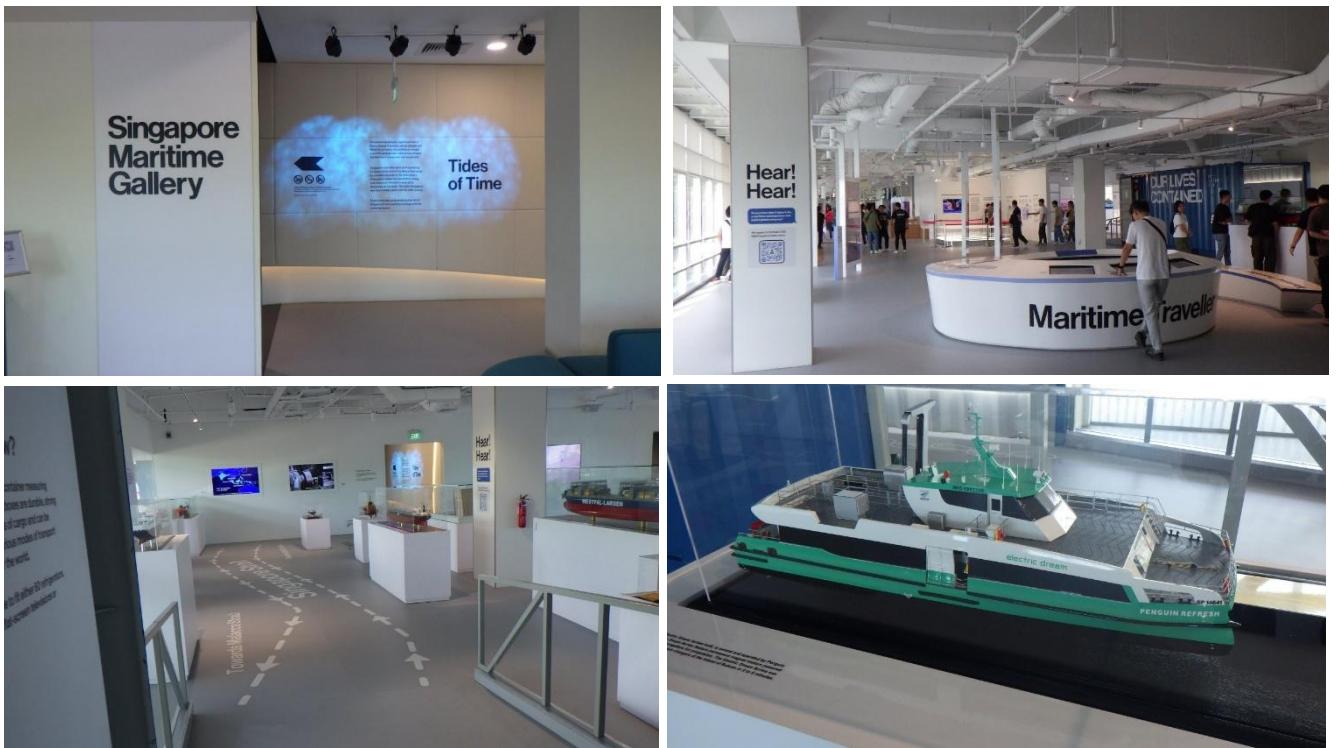
OCEANICO 社で建造中のラグジュアリー・ヨット 左は全長 100m 超

(補足) シンガポール

トランジットで立ち寄ったシンガポールでも色々な船を見ることができた。また、今回はマリタイム・ミュージアムにも行ったので、蛇足ながら、紹介しておきたい。

・海事博物館

シンガポールの新しい方のクルーズ・ターミナル、マリーナベイ・クルーズ・センターのメトロの最寄り駅マリーナ・サウス・ピアの傍にシンガポール海事博物館 (Singapore Maritime Gallery) があるので寄ってみた。いわゆるミュージアムと言うより、その名前で意識するギャラリーのごとく、比較的こじんまりとして、展示物も現代の物が多く、入場料も無料だった。



シンガポール海事博物館の内部 模型は同国初の完全電動フェリー「PENGUIN REFRESH」2023年建造



海事博物館の前は近くの島に行く遊覧船や本船に行く交通艇の乗り場 右奥はマリーナベイ・クルーズ・センター
(下左) 遊覧船「MSF HAPPY」、(下右)「I VIPER-I」

・シップ・ウォッキング

こちらは、セントーサ島の手前のハーバー・フロント駅の前からのシップウォッキング。目の前のターミナルに、元「おりえんと びいなす」の「エーゲアン・パラダイス」が着岸していた。



元「おりえんと
びいなす」の
「AEGEAN
PARADISE」



20,100TEU 超大型コンテナ船「EVER GOVERN」 今治造船・丸亀建造

遊覧帆船「ROYAL ALBATROSS」



ASEAN RAIDER I



HORIZON 7



MAJESTIC PASSION



WAVEMASTER 8



WAVEMASTER 5



QUEEN STAR 5